

小代中だより

「自ら未来を切り拓く
心豊かな生徒の育成」

香美町立小代中学校

No. 3 令和6年6月12日

感動を伝えよう！

5月20日から22日にかけて実施した東京への修学旅行が、もう随分前のことのように感じるほど時の流れは速く、学校では次々に様々な行事が行われています。3日間の修学旅行で見たこと、感じたこと、感動したことは、今も心に強く残っているでしょうか。

東京の人の多さ、スカイツリーから見たおもちゃのように小さく見えた街、国会議事堂の歴史を感じる議場、ミュージカルの面白さを存分に味わった劇団四季のライオンキング、浅草、お台場。都会の景色はきっと心に深く刻まれたことでしょう。



私は、忘れたくない事（驚いたり、感動したり、うれしかったこと）を記憶に留めておくのには、まず誰かにそのことをできるだけ詳しく自分のことばで語るのが良い方法であると思っています。誰にも語ることなく自分の頭の中だけで「良かった～！」と感動していても、1日経つとその記憶はぼんやりと色あせてしまうように感じるのです。もちろん、日記など文章にして記憶に留めるという人もいるでしょう。私の場合は、どうやらことばで伝えるタイプのようです。そして、可能であれば、何人かの人に伝えます。繰り返し説明する中で、記憶はどんどん色鮮やかに深く心に残っていくように感じるのです。



さて、子どもたちはご家庭で、修学旅行のお土産話をたっぷりとしたでしょうか。モノのお土産よりも、言葉で伝える「お土産話」というのは、とても価値あるものです。頭の中にある感動を言葉で表すのは、難しいことかもしれませんが、顔を見て、直接話すことでうれしさや驚きの度合いはダイレクトに伝わるのではないのでしょうか。子どもたちが各ご家庭でたくさんのお土産話を伝えているとうれしいです。

少しふるさと小代を離れてみると、小代の自然の豊かさにほっとします。生徒は修学旅行から帰って、バスを降りたときのひんやりとした空気、虫の声、聞きなれた家族の声を懐かしく感じたことでしょう。そして何より、家族の「おかえり」の声がうれしかったことと思います。修学旅行に際しまして、保護者の皆さまには多くのご負担をおかけしました。心よりお礼申し上げます。

わくわくオーケストラ教室にて・・・

5月29日は西宮市にある兵庫県立芸術文化センターで1年生8名がわくわくオーケストラ教室に参加しました。広いホールの2階席の最前列。しかも、一番舞台に近い場所。指揮者の方や、演奏者の方々の表情がはっきりと見える素晴らしい席でした。生の演奏は迫力があり、最後のアンコール曲のラデツキー行進曲は客席みんなの拍手も加わり、一体感を感じられるものでした。今回のわくわくオーケストラ教室で、とても良かったのはオーケストラの方々の演奏だけでなく、会場の生徒の皆さんの大きな歌声です。全員で歌った「ふるさと」の歌は心に響く歌声でした。小代中学校の生徒の歌声も大きく響いていました。とてもさわやかな気持ちになれたわくわくオーケストラ教室でした。



トライやる・ウィーク終了

6月3日から7日までの5日間、2年生9名が職場体験として、8事業所で活動しました。

出発式は、トライやる・ウィークを成功させようという意気込みの感じられる式でした。5日間の体験のまとめを28日の発表会で一人一人が発表する予定にしています。体験活動でどのような気づきや学びがあったのか、堂々とした発表を期待しています。

こぶし園、小代小学校、吉滝キャンプ場、小代認定こども園、マロニエ村岡店、いこいの里、小代子育て子育て支援センター、MEリゾート但馬 小代スキー場の職員の皆さまには、生徒たちを温かく迎えてくださり、丁寧にご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。



どう学ぶか？ ～家庭学習の工夫をしていますか～



家庭学習が充実していますか？ 宿題をしたり、自主学習をしたり、本を読んだり、調べものをしたり、家庭でできる学習は様々です。何を使って、どう学習するかはそれぞれ生徒に任されています。どんな学習の仕方が自分に合っているのか、宿題でも、自主学習でも自分に合った一番良い方法というのを見つけ出してほしいと思います。

学習する時に大切なのは自分で考えて工夫して学習することです。学びというのは、自ら知ろう、覚えよう、表現しよう、という自発的な姿勢が大切です。誰かに「しなさい」と言われるから「する」というのは、学ぶ目的が「知る、覚える、表現する」ということではなく「宿題を終えること」や「提出期限を守ること」になってしまいかねません。目的を間違えると、せっかくの学びがしっかりと身に付いてくれません。

知識を増やすこと、様々な考え方に触れいろいろなものの見方ができるようになること、豊かに表現できること、こうした学びは人生を豊かにしてくれます。生徒の皆さんは「もっと知りたい」「もっとわかりたい」「もっと上手くやりたい」そんな気持ちを大切に、どんなやり方が自分に合っているのかを探していきましょう。

中学生の親として、子どもの学習に関わることは次第になくなっていきます。とはいえ、子どもの様子は気になるものです。つつい「宿題したの？」「もう勉強しなさい。」という声かけに終始しがちです。しかし、表面的なできた、できない、を問うのではなく「今日はどんな宿題がでているの？」「今何の教科が面白い？」「今習ってること一つ教えて」といった学びの中身についての声かけに変えて、子どもの学びを見守ることが大切です。時には時事問題や社会で問題となっていることについて一緒に考えるのもよいでしょう。親自身が「学び」に対し興味を持ちながら、子どもの成長に寄り添えるといいですね。

「サポートルーム」について

メディアスペースを入って左側を「サポートルーム」として活用します。保健室で横になって休まなければならないほどではないけれど、少し休みながらであれば、学習もできるんだけど・・・そんな時は、サポートルームで体調を整えたり、心を落ち着けたりして過ごしてもらいたいと思います。利用する際は、担任の先生や養護の先生に声をかけてください。もちろん、自習室として、集中して学習したい時などは昼休みや放課後に使ってもらえたらと思います。居心地の良いスペースとなるよう、少しずつ整えていきます。



【訂正のお知らせ】先月の学校だよりの中の「卒業生からの素敵なプレゼント」の中の水間さんのお名前が間違っていました。正しくは水間美花さんです。大変申し訳ありませんでした。

【行事予定について】6月の行事予定につきましては、ホームページをご覧ください。